

アクティブシニアを目指して 高齢期を生き活きと生きるために

ポスト定年、3つの不安

本リーフレットでは、
「多くの方が不安に思われる」以下の3つの視点
で情報をご紹介します。

3つの不安

仕事のこと
定年後もまだまだ働きたいという人は少なくありません。

あなたは、どんな仕事をどのようにやるか
決めてますか？



2~4頁
ご参照

お金のこと
定年後もやはりお金は重要な問題です。

あなたは、どのようなマネープランを
お持ちですか？



5頁
ご参照

生きがいのこと
生きがいとは、「生きるはりあい」です。

あなたは、どのようなことに生きがいを
感じますか？



6頁
ご参照



「生き活きとした高齢期を送ろう！」
会社の定年が、人生の定年ではありません。
65歳現役社会の中で、重要な役割を担う世代として、生き活きとした高齢期を送りましょう。

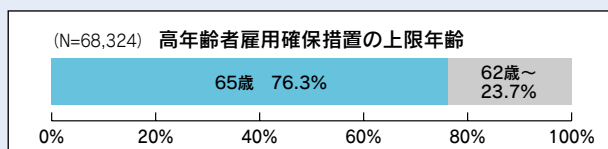
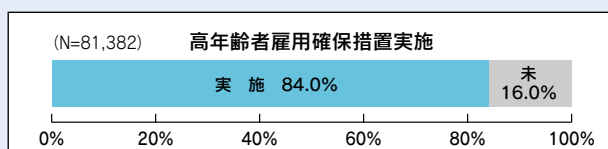
65歳現役社会が到来

多くの企業では、60歳以降の雇用確保制度の整備が進んでいます。また、60歳以上で就業する人の割合は過半数に達しています。つまり、**60歳はただの通過点**であり、既に65歳現役社会が到来しているのです。

あなたがお勤めの会社では、どのような制度を整備しているかご存知ですか？ また、それらに関連し様々な公的支援制度があることをご存知ですか？

是非、これを機会に人事部や公的機関等に確認してみてもいいでしょう。

企業の状況等



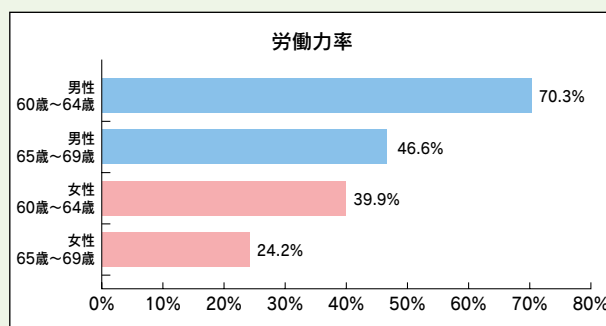
出典：厚生労働省調査（平成18年）

60歳以上の労働者を増やす事業所の「増やす理由」 (複数回答)

高齢労働者の経験・能力を活用したい	70.7%
高齢労働者に適した仕事又は年齢に関係ない仕事がある	35.3%
高齢労働者を雇用することは時代の社会的要請である	24.3%

出典：「高齢者就業実態調査」厚生労働省（平成16年）

個人の状況等



出典：「労働力調査」（総務省）（平成17年）

主な就業理由（上位の2つ）

	経済上の理由	生きがい、社会参加の為
男性 60歳～64歳	71.8%	9.3%
男性 65歳～69歳	60.3%	11.8%
女性 60歳～64歳	67.1%	11.3%
女性 65歳～69歳	55.3%	12.5%

出典：「高齢者就業実態調査」厚生労働省（平成16年）

公的支援制度は以下のものがあります。詳しくは各都道府県の労働局・ハローワークにお尋ね下さい。

- 高齢雇用継続給付（高齢雇用継続基本給付金及び高齢再就職給付金）
- 再就職手当 ※関連事業主以外の会社へ再就職した方対象

定年後の
プラン...



「定年後の働き方を考えよう！」

収入を得ること、生きがいを見つけること、人生のはりあいを持つことなど、働く理由は人それぞれですが、定年を迎えても、完全にリタイアせずに、まだまだ働きたいという人は少なくありません。

定年後の働き方もまた、個々人によって変わって来ます。

あなたはどのようなプランをお持ちでしょうか？

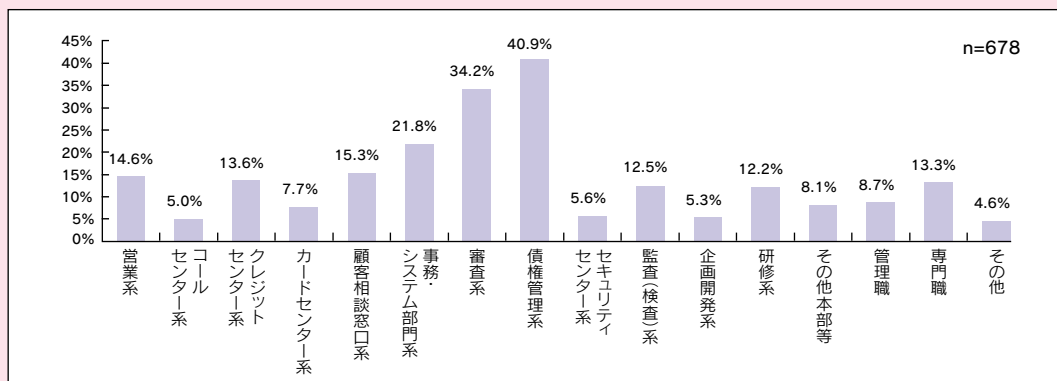
まずはプランを構想することが重要です。

仕事のこと②

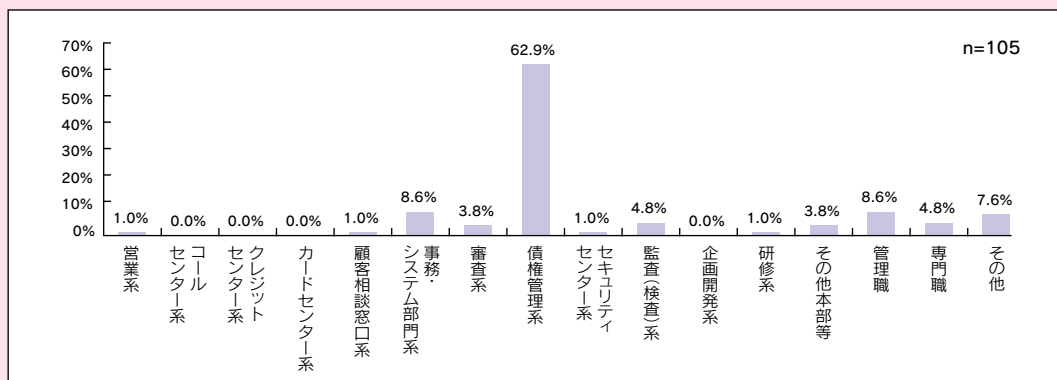
仕事の内容

定年後も同じ会社や業界で働くことを希望する人は多いかも知れませんが、**仕事内容が定年前と同じものになるとは限りません。**
仕事の内容についても、柔軟に考えるようにすることが重要です。

定年後に希望する職務(45~59歳)



現在従事している職務(60歳代)



出典：信販業高齢者雇用推進事業 アンケート調査(平成17年)

採用条件等

採用条件・雇用基準	回答
人事考課で一定以上の水準を充たす	23
健康診断の結果、業務遂行上支障がないと認められること	23
会社が必要とする就業場所で勤務可能なこと	10
会社の指定する一定の資格を保有していること	7
過去一定期間に懲戒処分がない	4
その他	4
再雇用の希望、労働意欲	2
再雇用後の労働条件に合意	2

出典：信販業高齢者雇用推進事業
 アンケート調査(回答:26社)(平成17年)

「能力の維持・育成や健康管理を！」

多くの企業では、「人事考課での一定水準を充たすこと」や「健康診断の結果」などを再雇用や継続雇用の採用条件・雇用基準としています。

これは、高齢者を排除しようとするモノではありません。あくまでも企業として能力を発揮できる人が欲しい、ということです。

会社が求めている基準を知って、自分の能力維持・育成、健康管理をすることなどにも是非注意を払って下さい。

仕事のこと③

働くスタンス・心構え（60代の先輩達の声）

企業にとって高齢者雇用は**福祉的な意味合いではなく、企業の戦力となる人材の確保である**ことは言うまでもありません。

高齢者が生き生きと働く職場が実現するためには、企業側にきちんとした制度整備・運用が求められますが、一方で働く側である個人にも、**現役のときとは違ったスタンスや心構えが必要**になってきます。



『会社のため、そして自分のために働く』

- 「会社が何を求めているのかを考えて、それに応えようとするのが大切。」(62歳)
- 「給料のためでなく、充実感の方が重要。頼りにされるといふことが、働く上で大切であると感じている」(62歳)
- 「収入よりも、仕事をするのが重要。頭を使わないとボケてしまう気がするし、何か物足りなさを感じてしまうだろう。」(62歳)

『まず、意識を変える。言い方を変える。』

- 「新卒で採用されたときの新人の気持ちが必要。『オレは昔こうだった』、『オレの方が先輩だ』などとは言わず、思わずが重要。」(61歳)
- 「職場の人間関係が大事。言いたいことを我慢することはある。正面から叱ったり、命令するような態度は厳禁。質問や会話を投げかけるような形で、言いたいことを言うように心がけている。」(62歳)
- 「現役の時に頑張った人ほどプライドは高くなる。プライドを早いうちに切り替えることができるかが勝負。」(62歳)



『体力的な衰えは、知識・経験・気力でカバー』

- 「誰でも多少は体力的には衰えていくのは確実だが、40年も培ってきた経験や知識があれば、業務を進めることに支障はない。」(61歳)
- 「体力や能力を維持するためには、自らの気持ちも充実させるようにすることが重要。」(62歳)

生きがい・過し方のこと

生きがい・定年後の過し方

人によって**生きがいの感じ方や社会との繋がり方は様々**ですが、あなたご自身は**どのような場面で自分の存在感を得られますか？**

今、まさに定年を迎えようとしている団塊の世代の方々の中には、就職した企業で**一生懸命働くことを「生きがい」としてきた人が多い**のではないのでしょうか。定年を迎える今こそ、もう一度**あなたご自身の「生きがい」を考えてみる機会**にしてみても如何でしょうか。

アクティブシニアは、**定年を人生の定年とは捉えず、仕事や趣味に意欲的であり、生涯現役志向をもって生きる人々**です。今までに培った**豊富な経験・知識で社会・コミュニティと関わり、生きがいに満ちた人生を楽しみましょう！**

定年後の「生きがい」について参考となる書籍

書籍名及び出版社(著者)	概要
『50歳からの定年予備校』 講談社+α新書(田中真澄 著)	ますます長くなる定年後人生。生活を支える年金への不安。少子高齢化社会の中で生きがいのある生活を築く自分の「個」の磨き方と「夫婦協業」精神の持ち方について。
『定年前にはじめる第二の人生』 ポプラ社(佐竹大心)	勤め上げるより、早めのスタートを切った、9人の実践者に学ぶ思い通りのセカンドステージについて。
『定年後を極める』 日本経済新聞社(日本経済新聞マネ&ライフ取材班)	シニアの生き方に焦点を当て、生きがいや家族、マネープラン、起業など12のテーマについてインタビュー。また、「私の定年後」をテーマに七十一人の実践記を掲載。
『定年後を楽しく生きる100の知恵』 日経BP社(日経ビジネス編集部)	リタイア後に必ず直面する、お金、仕事、趣味、生活スタイル、家族などの問題を現役のうちに考える、セカンドライフマニュアル。
『60歳からの生き方・暮らし方定年の技術』 日経BP社(日経Masters編集部)	「明るく」「元気に」「健康的な」セカンドライフを充実させるべく、“定年の先達”たちがどのように立ち向かったのか、具体的なケースを基に発想法や解決策を紹介。
『定年後大全 2005-06』 日本経済新聞社(日本経済新聞生活経済部)	老後の資産運用、年金、相続・遺言、税金、住宅、海外移住、生きがい探しについて。
『定年後の仕事選び』 日本経済新聞社(日本経済新聞社)	自分で納得できる仕事につくことを可能にする、シニアワークゲットのための実用書。
『定年後の居場所を創る』 中央公論新社(加藤 仁 著)	退職してからの生きがいをどこにもとめるか。自分を生き生きとさせる「場所」をどのように創造するか。タテ社会をはなれた人々の、それぞれの挑戦について。
『定年後「もうひとつの人生」への案内』 岩波書店(工藤宇一 著)	「第二の人生」をどう生きるか、生き方の多彩な具体例、示唆深い助言を各界識者の論考・エッセイ、公募原稿から精選した手記。

信販業高齢者雇用推進委員会より

平均寿命が延びている現在のわが国においては、定年の延長や定年後の再雇用制度、継続雇用制度等が社会的にも見直されてきています。このような状況の下、(社)全国信販協会では、(独)高齢・障害者雇用支援機構の支援を受け、当業界で働く方々の「ポスト定年」をよりよいものにするを目的として、本リーフレットを作成致しました。本リーフレットが皆様にとって定年後の充実したライフスタイルを継続して頂くきっかけの一つとなれば、大変嬉しく思います。

本リーフレット及び内容についてのお問合せは、下記までお願い致します。

(社)全国信販協会 業務企画部 TEL:03-5296-2971 FAX:03-5296-2979

お金のこと

年金の支給と仕事の収入のモデル

現役のときの収入によって、年金の支給額は変わります。また年金の支給額によって、仕事の収入のモデルも変わってきます。あなたの場合は如何でしょうか？

年金の支給年齢

	生年月日	受けられる年金					
		60歳	61歳	62歳	63歳	64歳	65歳
①	男 昭和16.4.1以前	報酬比例部分					老齢厚生年金
	女 昭和21.4.1以前	定額部分					老齢基礎年金
②	男 昭和16.4.2～昭和18.4.1	報酬比例部分					老齢厚生年金
	女 昭和21.4.2～昭和23.4.1	定額部分					老齢基礎年金
③	男 昭和18.4.2～昭和20.4.1	報酬比例部分					老齢厚生年金
	女 昭和23.4.2～昭和25.4.1		定額部分				老齢基礎年金
④	男 昭和20.4.2～昭和22.4.1	報酬比例部分					老齢厚生年金
	女 昭和25.4.2～昭和27.4.1		定額部分				老齢基礎年金
⑤	男 昭和22.4.2～昭和24.4.1	報酬比例部分					老齢厚生年金
	女 昭和27.4.2～昭和29.4.1		定額部分				老齢基礎年金
⑥	男 昭和24.4.2～昭和28.4.1	報酬比例部分					老齢厚生年金
	女 昭和29.4.2～昭和33.4.1						老齢基礎年金
⑦	男 昭和28.4.2～昭和30.4.1		報酬比例部分				老齢厚生年金
	女 昭和33.4.2～昭和35.4.1						老齢基礎年金
⑧	男 昭和30.4.2～昭和32.4.1		報酬比例部分				老齢厚生年金
	女 昭和35.4.2～昭和37.4.1						老齢基礎年金
⑨	男 昭和32.4.2～昭和34.4.1		報酬比例部分				老齢厚生年金
	女 昭和37.4.2～昭和39.4.1						老齢基礎年金
⑩	男 昭和34.4.2～昭和36.4.1						報酬比例部分 老齢厚生年金
	女 昭和39.4.2～昭和41.4.1						老齢基礎年金
⑪	男 昭和36.4.2以降						老齢厚生年金
	女 昭和41.4.2以降						老齢基礎年金

← 60歳台前半の老齢厚生年金 →

年金は個人によって違いがありますので、社会保険庁や地域の社会保険事務局等にお尋ね下さい。

○社会保険庁のホームページ：<http://www.sia.go.jp/sodan/index.htm>

○地方社会保険事務局のホームページリンク：<http://www.sia.go.jp/top/link/chihou.htm>

60～69歳の世帯当たりの支出

基本的な生活費	¥163,030
(食料、住居、光熱水道、家具・家事用品、被服、履物、保健医療、交通・通信、教育等)	
教養娯楽費	¥28,560
その他の消費支出	¥71,793
(諸雑費、こづかい、交際費、仕送り金等)	
消費支出の合計(1ヶ月)	¥263,382

注：世帯人員の平均は 2.32人
世帯主の平均年齢は 64.6歳
持ち家率は 85.1%

出典：家計調査(総務省 平成17年)を元に作成

「基本的な生活費で16万円強」

60歳以降に、世帯あたりいくらの生活費がかかるかご存知ですか？

平成17年の「家計調査(総務省)」によると、60歳代の世帯支出の平均は、基本的な生活費で163,303円、教養娯楽費やその他の消費支出を併せると、約26万円強となっています。

上記の年金支給年齢と合わせて、60歳以降のマネープランも考えておくことが重要です。年金の支給だけで不足する場合、それをどのように埋めていくのかなど、是非、今のうちから調べておきましょう。